資料３－１

市民懇談会の開催結果（概要）

１　開催概要

日時　：令和５年３月４日(土)

場所　：市民交流センター　多目的ホール

対象者：無作為抽出の市民 2,000 名に通知を郵送

参加者：21 名

内容　：事前説明として、利用者の減少や運転手不足等の公共交通を取り巻く厳しい状況を説明し、話し合いを３つのステップに分けて、公共交通を維持・充実していくために何が出来るか、参加者に議論していただきました。

２　話し合いの流れ

○ステップ１「交通手段にはどんなものがあるか考えてみよう」

（内容）

公共交通に限らず、様々な交通手段や移動手段を挙げていただき、公共交通と私的交通の境界線を引き、分類していただきました。

公共交通	（どちらともいえない）	私的交通
＜交通手段＞ バス、電車、モーリーカー、路面電車 地下鉄、フェリー、コミュニティバス	飛行機、ヘリコプター タクシー、シェアカー	バイク、車 自転車、原付バイク
＜分類の考え方＞ 大人数で乗る、利用料金が必要 公共や法人が運営、営業許可が必要 自由度が低い	目的地が固定ではない 予約が必要	個人で所有 少人数で乗る 自由度が高い 利用料金が不要

○ステップ２「各交通手段の特徴を考えてみよう」

（内容）

公共交通、私的交通それぞれの良い点と悪い点を挙げていただき、各交通手段の特徴を考えていただきました。

公共交通	私的交通
＜良い点＞ 個人で乗り物の管理が不要、運転が不要 エネルギー効率が良い	家から乗れる、いつでも乗れる 運賃が不要
＜悪い点＞ 好きな時間に乗れない、天候に左右される	個人に責任がある、渋滞が発生
＜特徴＞ 個人に責任がない、自由度が低い、 環境に良い、免許不要で誰でも乗れる	自由に移動可能、免許が必要 事故等の責任が個人にかかる

○ステップ３「公共交通の維持・充実のためにできることを考えよう」

（内容）

今後、公共交通を維持・充実していくために、個人、グループ（地域や民間企業など）、交通事業者、行政がそれぞれどのような取り組みをすれば良いか、考えていただき、提案していただきました。

個人

利用する、環境保全に貢献できると考える
交通に興味を持つ、口コミで広める

グループ（地域や民間企業など）

交通のイベントなどに協力
公共交通利用者に特典

交通事業者

複数の公共交通利用で割引
AIやアプリの活用、自動運転の導入
運賃や定期券料金の軽減
週末に飲み会用深夜バスを運行

行政

路線図や時刻表の周知
利用者の意見聴取の強化
補助金を適切に交付する
利用方法の周知
全体の音頭を取る

提案事項

・公共交通機関を利用して買い物に行くとポイントアップ（金銭的メリット）
・電子化（アプリやキャッシュレス）を進め、情報発信を増やす。
・情報サイクル（周知・意見集約・改善）をしっかり回す。
・安全安心で誰もが使いやすい公共交通機関の実現
・親子に楽しく公共交通について知ってもらう、乗りたくなるイベントを実施

３　まとめ

公共交通とは何か、また、その良い点や悪い点は何かを議論した上で、公共交通を維持・充実していくためにできることについて、様々な意見をいただきました。

いただいた意見のうち、「安全安心で誰もが使いやすい公共交通機関の実現」や「情報サイクル（周知・意見集約・改善）」等の意見については、計画の方針や将来像を検討するなかで、活用していきます。

また、「電子化（アプリやキャッシュレス）」、「親子で公共交通に親しみを持ってもらうためのイベント」等の意見については、将来像を実現するための施策や取り組みを検討するなかで、活用していきます。